



令和5年度 ふくずみ幼稚園学校評価について

本園では、園の教育や運営等の改善を図ることを目的として自己評価を行っています。この評価活動は、指導の在り方、取り組み方、園としての運営の在り方などを評価することで本園の教育活動を振り返り、次年度の方向性や方策を検討するものです。

今年度の評価結果をまとめましたので保護者の皆様にお知らせいたします。

「教育計画」「指導の重点目標」「保育の在り方」「研修・研鑽・働き甲斐」「保護者との連携」の大きなくくりの中でそれぞれについて4個～9個の評価項目を設定して評価しました。

◇教育計画では・・・

今年度の活動については概ね肯定的にとらえており、次年度も今年度の活動をベースに工夫を加えて継続していこうと考えています。

その中で、

- ① 「縄跳び」の取組については、年少から取り組み、年長に向けて積み重ねていけるように計画していきます。
- ② コロナ前まで行っていた「クッキング」については、農園で収穫した野菜を使って実施していこうと考えています。
- ③ 秋の運動会を縦割り活動として実施できるように検討しています。
- ④ 年間3回実施している「避難訓練」については、今年の正月にあった地震の教訓から、いつ災害が起きるかわからないという想定で避難訓練を実施することにしました。具体的には秋の避難訓練を「今日訓練をすることだけを知らせ、何時に実施するかかわからない設定での訓練」を実施することにしました。
- ⑤ 保育発表会をクラスごとの開催から学年ごとの開催に変更しようと考えています。その結果、今年度の6部から3部へ変更して開催する予定です。

◇重点目標では・・・

本園では、○強くたくましい心と体を育てる

○創造性を高め、情操を豊かにする

○社会性を育て他と協調し合える心を養う

○自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする

○基本的生活習慣を徹底して身につけさせる

ことなどを重点にして保育活動を行っています。その中で、

- ① 自由遊びの時に使えるおもちゃをもっと増やしていくこと
- ② 子どもたちの作った作品を廊下に飾り、互いに刺激し合える環境を作ること
- ③ ホールでのけがを防止するために使用するクラスを分けて自由遊びの時間を設定すること
- ④ 挨拶に重点を置き、自分から挨拶をする習慣づくりの工夫と活動づくりをすること
- ⑤ ジェンダーレスの取組について
子どもたちの呼称は「さん」としますが、2歳児クラスではまず人間関係を築くために「ちゃん、くん」も併用することとしました。

◇保育の在り方では・・・

保育発表会での取り組み方（振り付けやポーズを自分たちで考えたり、小道具を自分たちで作ったりする活動）を継続し、より自主的、自発的な活動にしていくことを大切にします。

また、年長クラスの劇づくり（読み聞かせの絵本に浸る活動から劇を創っていく手法）を継承していきます。

◇地域・保護者との連携では・・・

お子さんのことで心配なこと（発達、言語、体力面、人間関係など）がある場合には、園での様子を見ていただくことも含めて対応していきます。担任、又は教頭の鬼塚までいつでもご相談ください。

◇その他・・・

令和6年度に大きく変わることで

- ・2歳児（満3歳を含む）クラスを開設します。これによりこれまでと変わることがありますのでご協力ください。
- ・2歳児クラスのみ午前におやつタイムがあります
- ・入園当初は、自由遊びの時間は2歳児クラスと年少クラス以上の子の活動場所を分けます。
- ・朝預かり、放課後の預かりの時は、玄関での対応ができません。朝は預かりのお部屋へお子さんをお連れ頂き、お迎え時は預かりのお部屋までお越しください。

よろしくお願いいたします。



令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年3月5日
ふくずみ幼稚園

1 本年度の重点目標

- 「自然との触れ合いを通して、豊かな人間性を育む教育活動の推進」
- 「子ども一人ひとりの良さと可能性を引き出す教育活動の推進」
- 「教職員が働き甲斐を感じ、子どもが明日も通いたいと思える園の創造」

2

1. 強くたくましい心と体を育てる
2. 創造性を高め情操を豊かにする
3. 社会性を育て他と協調し合える心を養う
4. 自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする子の育成

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標・評価	今年度の重点目標とした園の課題は幼児の実態に合わせ十分に組み組めるものであったか。	A	日常的なきめ細やかな関わりを通して子ども一人ひとりに目を向け成長を促してきた。今後もこのかわり方を大切にしたい。	A	A
	教育目標の実現に向けた園評価のあり方は現在行われている方法でよいか。	B	今年度大きく評価方法を変更した。項目を絞り園運営を評価し易いものにと考えた。今後は評価項目の吟味を進め、更に適切に評価できるシステムを構築したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		組織としての運営状況を客観的に評価できるように、評価方法や評価項目など更に工夫を加えて取り組んでほしい。			
教育指導	幼稚園教育要領にのっとり幼児の発達段階に即した適切な指導がなされたか	A	全ての職員が集団に関わり、課題が見つかった時には、その都度相談して改善を図っている。今後とも同様な関わり方を継続したい。	A	A
	改善の取組や指導力を向上させるために研修を効果的に進めることができたか	B	研修への参加体制の構築や園内の研修を計画的に行い指導の質を高めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		研修時間の確保は業務内容の考えるとなかなか難しい。それだけに時間確保の工夫や応援体制の確立など業務の内容を含めて工夫改善を図ってほしい。			
保育重点	育てたい児童像、指導重点などの提示が適切であったか	A	日常的な関わりと節目での確認のシステムがうまく働いている。日常的に子どもの育ちを話し合える風土もあり今後も継続していきたい。	A	A
	提示された項目について適切な指導がなされたか	A	どのように関わっていくかを学年ごとに検討し、交流し合い全体のものにしていく方法を継続したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		取り組まれている方法を継続してほしい。			
安全管理	緊急事態発生時の対応は十分であるか	A	今年度、緊急時の記録をメモできるように用紙を作成し、保育室、ホールなどの子どもが集まる場所に常設した。これにより時系列で記録することの大切さも職員に浸透した。	A	A
学校関係者評価委員による意見		避難訓練等の設定条件も工夫されていると聞き、素晴らしい取り組みだと感じた。			
情報提供	園の情報が適切に公開されているか	A	HPをリニューアルし、園の情報を保護者に発信した。閲覧数が増え、情報発信のソースとしての有効性を実感した。今後ともタイムリーな情報発信に努めたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		HPの情報発信、携帯メールでの連絡、園バスに情報を掲示するという方法を継続してほしい。			
連携	園と地域社会が双方向の連携を図ることができているか	B	コロナ禍ということもありなかなか交流することが出来なかった。小学校との交流が再開され少しずつコロナ禍前の状態に戻していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		スピードはゆっくりでかまわないが、様々な地域社会とつながっていけるように連携を図ってほしい。			